

ば余も亦清浄なり。解脱が自在なれば余も亦自在なり。一切の法を聞くこと亦是の如し。皆仏法を具して減少する所無し。是を聞円と名く」等云云。此の釈は即ち相對種の手本なり。其の意如何。答う、生死とは我等が苦果の依身なり。所謂五陰・十二入・十八界なり。煩惱とは見思・塵沙・無明の三惑なり。結業とは五逆・十惡・四重等なり。法身とは法身如来、般若とは報身如来、解脱とは応身如来なり。我等衆生無始曠劫より已來此の三道を具足し、今法花經に値いて三道即三徳となるなり。

難じて云く、火より水は出でず、石より草は生ぜず。惡因は惡果を感じ、善因は善報を生ずるは、仏教の定まれる習いなり。而るに我等其の根本を尋ね究むれば、父母の精血赤白二滯和合して一身と爲る。惡の根本不浄の源なり。設い大海を傾けて之を洗うとも清浄なるべからず。又此の苦果の依身は其の根本を探り見れば貪瞋癡の三毒より出づるなり。此の煩惱・苦果の二道に依りて業を構う。此の業道即ち是れ結縛の法なり。譬えば籠に入れる鳥の如し。如何ぞ此の三道を以て三仏因と称せんや。譬えば糞を集めて栴檀を造れども終に香しからざるが如し。

答う、汝が難大いに道理なり。我も此の事を弁えず。但し付法藏の第十三天台大師の高祖竜樹菩薩、妙法の妙の一字を釈して、「譬えば大薬師の能く毒を以て薬と爲すが如し」等云云。毒と云うは何物ぞ。我等が煩惱・業・苦の三道なり。薬とは何物ぞ。法身・般若・解脱なり。能く毒を以て薬と爲すとは何物ぞ。三道を變じて三徳と爲すのみ。天台云く、「妙をば不可思議と名く」等云云。又云く、「夫れ一心、乃至不可思議境、意此に在り」等云云。即身成仏と申すは此れ是なり。近代の花嚴・真言等、此の義を盜

み取りて我が物と為す、大偷盜天下の盗人はなり。

問うて云く、凡夫の位も此の秘法の心を知るべきや。答う、私の答は詮無し。竜樹菩薩の大論九十三に云く、「今漏尽の阿羅漢還りて作仏すと言うは、唯だ仏のみ能く知ろしめす。論議者は、正しく其の事を論ずべし。測り知ること能わず。是の故に戲論すべからず。若し求めて仏を得る時は乃ち能く了知す。余人は信ずべくも、而も未だ知るべからず」等云云。此の釈は爾前の別教の十一品の断無明、円教の四十一品の断無明の大菩薩、普賢・文殊等も未だ法花経の意を知らず。何に況や藏・通二教の三乗をや。何に況や末代の凡夫をやと云う論文なり。

之を以て案ずるに法花経の「唯だ仏と仏とのみ乃し能く究尽したまえり」とは、爾前の灰身滅智の二乗の煩惱・業・苦の三道を押えて、法身・般若・解脱と説くに二乗還りて作仏す。菩薩・凡夫も亦是の如しと釈するなり。故に天台の云く、「二乗の根敗之を名けて毒と為す。今経に記を得る、即ち是れ毒を變じて薬と為す。論に云く、余経は秘密に非ず、法花は是れ秘密なり」等云云。妙樂云く、「論に云くとは大論なり」と云云。問う、是の如く之を聞きて何の益有るや。答えて云く、始めて法花経を聞くなり。妙樂云く、「若し三道即ち是れ三徳と信せば尚能く二死の河を渡る。況や三界をや」と云云。末代の凡夫此の法門を聞かば唯我れ一人のみ成仏するに非ず。父母も又即身成仏せん。此れ第一の孝養なり。病身たるの故に委細ならず。又々申すべし。

建治四年太才
戊寅二月廿八日

日蓮 花押